

## Ⅱ 令和2年度の 研究開発の内容

## II 令和2年度の研究開発の内容

### 《研究開発の内容や地域課題研究の内容について》

- 総合的な探究の時間「未来探究」の取組<1学年>
  - ・ 「山北」「未病」「地域防災」の3単元に分けてグループ学習を実施、最終週ではクラス内で各グループによる成果発表会を実施した。
  - ・ 「山北」については、夏季休業中に「自分の住む地域の課題とその解決策」についての調べ学習をグループごとに実施、夏季休業明けに各クラスで発表した。2学期には、「地域経済分析システム(RESAS)」を用いて山北町の産業等について調べ、町の魅力や課題について分析するとともに、活性化のための手立てをグループワークで考察し、成果発表会を実施した。
  - ・ 「未病」については、「未病という概念をどのようにして他者に伝えるか」ということについて発表媒体をグループワークで考察し、成果発表会を実施した。
  - ・ 「地域防災」については、「やさしい日本語」、「DIG研修」、「応急手当」の3つの単元に分けてグループワークを行い、グループでの発表会を実施した。
  - ・ 山北町都市農村交流活性化推進協議会の協力の下、体験プログラム（「森林セラピー」「農業体験」「生涯学習センターにおける体験学習」）すべてを巡るフィールドワークを実施し、「気づいたこと・興味を持ったこと」「山北町の魅力」「山北町の課題」「課題の解決策」の4項目についての学習成果をポートフォリオ課題として配信・回収した。
  - ・ 生徒一人ひとりが「Myプロジェクト」を持ち、課題解決に向けた学習を推進した。
  - ・ それぞれのMyプロジェクトを6カテゴリー（①住みやすい町、②人口減、③高齢化・医療福祉、④特産品、⑤地域活性・魅力化、⑥観光・集客）に分け、ゼミ形式で学習を展開した。
  - ・ Myプロジェクトに関するフィールドワーク（11月14日）を、県西地域全体を学びの場として実施した。なお、事前指導は外部講師を招いて実施した。
  - ・ Myプロジェクト発表会（3月）を実施した。
- 学校設定教科「あしがら」、科目「未病」「地域防災」の選択で実施<2学年>
  - ・ 「未病」では、「東洋医学コース」「未病普及コース」の2コースから、「地域防災」では、「DIGコース」「HUGコース」「酒匂川未来コース」の3コースから選択させ、実施した。
  - ・ 未病の学習で、総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブと協力し、地域の幼児、児童とその保護者（約30名）を対象に、未病に関わる地域イベントを開催した。
  - ・ 「未病」、「地域防災」のコース別発表会を実施した。（12月17日）
- 地域協働学習に関わる校内発表会・講演（2月4日）
  - ・ 地域課題の解決に向けて、より実践的なプロジェクトである12チームによる代表発表とした。（各クラスで事前に収録した動画を視聴、教員は各発表を観点ごとに評価）
  - ・ 露木志奈氏（環境活動家）によるオンライン講演会（テーマ「今、世界中で何が起きているのか ～私たちだからできること～」）を実施した。

### 《地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け》

- 1学年では、1単位であった「未来探究」の充実を図り、2単位の増単として設置した。
  - ・ 前年比1単位増加により、先行的に「山北」を学習、2学年で学習する「未病」「地域防災」についての導入的な学習の充実を図り、適切な科目選択に資した。
- 2学年では、学校設定教科「あしがら」に学校設定科目「未病」、「地域防災」（2単位）を、解決実践に向けてのプランを作成するため「未来探究」（1単位）を設置した。

- ・ 「未来探究」のゼミナールで専門的な学びを深め、探究活動を進めた。
- 令和3年度3学年では探究活動のまとめとして成果発表及び政策提言を実施する予定である。

#### 《地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について》

- 教科横断的な授業計画を学校全体の取組として体系化し、各教科が情報を共有した。
- 様々な教科で課題解決したことを活用できる教科横断的な探究活動を実施していくために、科目の異なる複数の授業において思考力を高める授業展開を目標として定めた。
- 探究活動で得た知見を各教科の学習に生かすことができるよう「未来の山北高校を探究しよう」をテーマに、カタパルト株式会社の協力により職員研修を実施した。（1月5日）。

#### 《地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制》

- 授業改善のテーマを「生徒の思考力を高める授業展開」として校内研修を実施したところ、生徒自らがその意図を理解し、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

#### 《学校全体の研究開発体制について（教員の役割、それを支援する体制について）》

- 組織再編を実施し、資源を生かしながら協働を通して、目的達成のために自らの意志を持って継続的に事業運営を行う学校組織を構築した。
- 定期的な事業研究会議を実施することで、コンセプトを共有し、各セクションの進捗状況の確認を行うとともに、学校運営協議会を有効に活用し、意見を取組に反映させた。
- 生徒を地域が育てる「チーム学校」という発想を地域の方々や山北町町議会と共有した。

#### 《カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて》

##### ＜カリキュラム開発専門家＞

- 授業参観を通して、単元の中で示された学習活動の展開への指導・助言。
- 学年会議、コンソーシアム連絡会議への出席や授業参観後の進捗状況等に関する協議に参加し、本事業全体の監修と教育課程全般について指導・助言。

##### ＜地域協働学習実施支援員＞

- 校内の企画及び学年会議、コンソーシアム連絡会議等への参加。外部人材、団体（学校関係、地域住民関係、企業関係）の活用に向けた連絡・調整。
- 授業に参加し、学習に関わる「学びの場」を提供するための連絡・調整を行った。

#### 《学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて》

- 連携推進グループが研究開発を立案、学習支援グループが計画・実施に向けて調整・管理、キャリア教育グループが探究活動を生かした進路指導に連結させる指導体制とした。
- 学校を核とした地域協働活動に山北町とともに着手し、その充実を図るために、外部の人材を活用した取組を推進し、改善につなげた。

#### 《カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について》

- 有限会社小田原ドライビングスクールの協力の下、学校設定科目「地域防災」などで活用する

ドローンについて操縦方法や法律的なルールを学ぶ授業展開を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の実施については見送りとした。

- 総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブには、未病に関わる講演会の実施や、生徒の課題解決の設定から整理・分析に加わっていただき、探究活動へ協力していただいた。その他、山北町役場や山北町議会にも本校の取組を伝達し、生徒の考えた町の課題に対する施策を提言として町議会議員へ発表した。

#### 《運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について》

- 早稲田大学教職大学院客員教授羽入田眞一氏、山北町教育長石田浩二氏、OECD 日本イノベーションネットワーク事務局長小村俊平氏を運営指導委員に委嘱した。
- 第1回「令和元年度の活動報告及び令和3年度の活動計画について」（7月21日）
  - ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策として、神奈川県ガイドラインを遵守しながら、地域とともに、生徒の主体的な関わりを推進することについて協議し、広報活動と外部団体の設立に注力することを決定した。
- 第2回「令和2年度の活動報告及び令和3年度の活動計画」について（3月12日）
  - ・ 令和2年度研究開発完了報告書についての指導・助言をいただき、令和3年度の活動方針について確認した。

#### 《類型毎の趣旨に応じた取組について》

- コンソーシアム団体の協力により、森林セラピー、史跡巡検、農業体験及び生涯学習センターで地元食材、教材を使った体験学習など、山北町フィールドワークを実施した。
- My プロジェクトに関わるフィールドワークでは、県西各市町の市役所及び町役場や近隣道の駅、飲食店等県西地域全体を学びの場としたフィールドワークを実施した。
- 地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組として、地域における地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知りコミュニティを支える人材育成を行った。
- 本校の特色ともいえる「スポーツの山北」の良さを継承した形で「未病」や「地域防災」の学びを通じ、高齢者比率4割の山北町の課題解決に取り組んだ。
- 1年生では山北町の現状理解と課題発見につなげる学習を行い、2年生では課題の解決方法をより実践的な「地域おこしプロジェクト」として深化させる学習を行った。

#### 《成果の普及方法・実績について》

- 令和2年12月17日に2学年において探究学習コース別発表会を実施した。山北町町議会議員、学校運営協議会委員、コンソーシアムに関わる方々など外部より17名が参加した。
- 令和3年3月23日、県教育委員会主催の県西地区探究学習に係る成果発表会において、地区内の高校を対象に、本研究の成果を代表生徒がポスターセッション形式で発表した。
- 令和3年2月4日に1・2学年合同で、地域協働学習に関わる校内発表会を実施した。地域課題の解決に向けて、より実践的なプロジェクトである12チーム（各学年6チーム）による代表発表及び露木志奈氏（環境活動家）によるオンライン講演会（テーマ「今、世界中で何が起きているのか ～私たちだからできること～」）を実施した。
- 2学年の未病に関わる継続的な探究活動の取組については、令和2年12月にテレビ神奈川で報道された。